

令和3年度関西地区合同演武会

七月二十二日(木、海の日)大阪府の吹田市立武道館「洗心館」にて(公財)合気会合気道本部道場長植芝充央先生をお招きし、令和三年度関西地区合気道合同演武会を開催致しました。二十年以上にわたり道主植芝守央先生、植芝道場長にご指導を頂き研鑽会を行ってきましたが、コロナ禍の影響により昨年より研鑽会は中止となりました。しかしながら関西の道場の皆様の励みになればと世話人一同で熟考した結果、今年度は各道場の代表者による演武会を開催する事と致しました。当日は三十一団体、約百名の参加となりました。

開催に際しましては、コロナ感染拡大予防及び熱中症予防対策としまして無観客マスク着用、健康管理表の提出、事前・当日の検温、演武では手指・足裏の消毒、三回の昼消毒、発声しない事など徹底して対策を取りました。

また、無観客の為に直接演武が見られない関西の道場の皆様にもご覧頂けるようYouTube配信をすることとしました。ご了承頂きました道主植芝



最後に植芝道場長により、各団体の代表者演武の後、演武をして頂き、静けさの中でも氣迫と熱気に包まれた演武会となりました。参加者一同充実した気持ちの中、関西の皆様にとりまして希望の光になると確信し、演武会は無事終了致しました。
(関西地区合気道合同演武会世話人 今泉 恵美)

先生、植芝本部道場長に心より感謝申し上げます。

演武会開催の挨拶で、植芝本部道場長より「今日、このような形でこのコロナ禍の中、関西地区合気道演武大会が無事執り行われますこと、心からお慶び申し上げます。今できることをやっていくというのは本当に素晴らしい事だと思えます。また、演武大会という形で続けていくことを選んでいます。この演武大会が、日頃稽古されている皆様にとり、次につながる大会になる事を願っています」とのお言葉を頂戴しました。

文部科学大臣主催歓迎行事

令和三年七月二十三日、東京オリンピック開会式に先駆けて行われる、文部科学大臣主催の歓迎行事が帝国ホテルにて開催された。前回の昭和三十九年に開かれた東京オリンピックでは、当時本部道場長だった植芝吉祥丸二代道主が選手村と東京ヒルトン・ホテルで演武を披露したという記録がある。出席したのは、主催者である萩生田光一文部科学相、丸川珠代東京オリパラ担当相など国内から二十六名、そして海外からスポーツ担当相および関係者六十三名(六十二万国)。COVID-19への対策として会場での飲食はなく、出席者は用意されたパーティション付きの席で演武を観覧した。演武前には萩生田文部科学相が武道団体の控室を訪問し挨拶を行い、各演武者は改めて気を引き締めた。

今回の歓迎行事で演武を行ったのは日本武道協議会に加盟する合気道、弓道、少林寺拳法、銃剣道、なぎなた、相撲、剣道の七武道で、それぞれ約二分の時間内で各武道の特色を披露した。



たことは、またとない大変貴重な経験であった。海外からの出席者の方々と会話することはなかったが、合気道や他の日本文化に少しでも興味を持っていたら幸いです。

柔道と空手道は正式種目のため行われなかった。また、武道の他にも芸者や車人形も出演した。合気道からは植芝充央本部道場長が演武をし、立ち技、座り技、半身半立ち技、最後に二人取りを行い、会場中の注目を集めた。

行事終了後、控室にて、吉川英夫(公財)日本武道館理事・事務局長が挨拶をされ、「本日はお忙しい中にもかかわらず、ご協力いただきありがとうございます。今回皆さんが披露されたことは、出席者の心にしつかりと残ったと思います。きっと国に戻った際に今日見たことを話され、より多くの人が日本の武道というものに興味を持ってくれるでしょう」と、今後さらに武道が海外で広がることに期待を寄せた。このようなかたちで東京オリンピックに関わ

国際合気道連盟（IAF）第13回総会

十月十三日午後一時、国際合気道連盟（IAF）の第十三回総会が一年の延期を経て開催された。IAF総会は、四年に一度国際合気道大会において五日間にわたって行なわれるのが従前の例であるが、今回は、オンライン形式で三時間のみの会議の開催となった。

総会の冒頭で国際合気道連盟の会長である道主から「第十三回国際合気道連盟の総会を開催するにあたり一言ご挨拶させていただきます。昨年より新型コロナウイルス感染症の世界中における蔓延により、合気道界もその活動を著しく制限され、ほとんどの行事は延期または中止せざるを得ませんでした。本来であれば総会開催と同時に世界の道友が一堂に会し、講習会・国際合気道大会が開催され、合気道の探求は勿論、友好を深めることができる和合の大会となるはずでした。直接顔と顔を合わせての話し合いができないことはとても残念ではありますが現在の状況下でIAF加盟国の代表者の方々とりもろとで会議を行えることは大変有意義なことであると思います。IAF役員の方々ははじめとする皆様のご協力に心より感謝申し上げます。開祖植芝盛平翁は、合気道の稽古を通じて互いを尊重する融和の心を養い、その心によって世界が平和につながると唱えられました。また、吉祥丸二代道



主は、一九四五年以降、合気道の門戸を一般に開き、世に広められてきました。その流れで国際合気道連盟は設立されたのです。今年には合気道本部道場創建九十周年という節目の年ですが、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり未曾有の被害をもたらし、いまだ収束していないという厳しい状況下に置かれている時となっていました。

現在、私たちはこの状況下だからこそ合気道本部道場の九十年の重みを感じ、先達への感謝を常に持ち、会員同士が心を一つに歩んでいかなければならないのではないのでしょうか。総会を開催するにあたり、開

祖の心を大切に、各国間の融和をはかるためという国際合気道連盟の真の役割を再認識し、話し合いが実り多く、合気道発展の一助となることを願っております」と開会宣言が行われた。

短時間に収めるために、四月以降数回にわたってIAF役員及び各国代表が参加するオンラインの事前会議が行われてきた。今回参加したのはIAFに加盟する五十四



の国と地域の代表者。また、植芝守央道主、植芝充央本部道場長を始め、合気会から三名、IAF役員、IAF高等委員、IAF技術専門委員、全日本合気道連盟からの出席があった。

今回の総会では、新理事の改選、IAF会長による高等委員及び専門委員の任命、新加盟国の承認、財務報告、新たな会費制度、予算案、規約改定等について話し合われた。

IAF理事の改選では以下の通りに新理事等が選出された。理事長…ウィルコ・フリースマン氏（オランダ）、副理事長…井沢敬氏（コロンビア）事務総長…ドリン・マルキス氏（ルーマニア）、財務総長…加賀聡氏（日本）、事務総長補佐…コリー・ヒューマン氏（南アフリカ）、理事…岡本洋子氏（日本）、アダム・マニコヴスキー氏（ポーランド）、フレデリック・ホイブルック氏（ベルギー）、チャールズ・マクギニス氏（アメリカ）、アドバイザー…神谷正一氏（合気会国際部）。また、会議の最後には、植芝道主に代わり植芝本部道場長から、高等委員の任命として、多田宏、山田嘉光、浅井勝昭、菅沼守人、尾崎响、クリスチャン・ティシエ及びトニー・スマイバート各師範並びに技術専門委員として、宮本鶴蔵、横田愛明及び大澤勇人各師範の任命発表があった。

その後、退任理事への謝辞、IAF理事長の閉会の挨拶、道主による閉会の辞が述べられ、総会は閉幕した。次回の総会は二〇二四年に予定されている。